

男子部・女子部

平和週間

佐藤綾乃（広報部）

2016年から男子部生徒により始められた平和週間は、2019年より女子部生徒も加わり、2021、22年度も合同で開催した。21年度はオンライン、22年度は対面で行った。

【2021年】

2021年9月21日、22日の2日間で「平和週間」が行われた。この年で6回目となる平和週間だが、コロナ禍だったため初のオンラインでの特別授業となった。今回の講師はフィリピン・ミンダナオ島での戦争体験がある坂上多計二さん、全盲の障害者でもある東京大准教授の星加良司さんのお二人をお呼びし、戦争の恐ろしさや社会で少数派が不利益を受けている問題に向き合った。

平和週間のテーマは生徒にハンドルを握らせている。2016年から始まったこの授業を通して、生徒たちに受け身ではなく自ら主体的に関わることで「平和」を感じてもらい、理解してもらうことを大切にしている。特に21年からは運営のほぼすべてを生徒たちが行った。今年のテーマを決めたのも生徒自身であり、決定までは様々なことがあった。ギリギリまでテーマが決まらない状況にもなったが、更科校長は生徒が動くのを待った。

そうして決まったテーマで、2日間オンラインで講師をとことん話し合った。戦争のリアルを聞き、マイノリティーの声を聞くことで、生徒たちはこれから自分たちが生きていく社会がどうあるべきなのか、何が「平和」に繋がるのか、考えるきっかけとなった。

【2022年】

今年で7回目となる今回の平和週間では、中2から高3までの19名の生徒たちが運営に立候補し、企画の組み立てを行った。講師には、3名の講師をお招きしそれぞれお話を伺った。1日目では社会評論家の岡田斗司夫さんによる『「最悪の平和」と『まだマシな戦争』というテーマで実際に生徒に質問しながらの講演となった。「なぜ戦争をするのかを知り尽くした上で、平和について考えて欲しい」と岡田さんは述べていた。2日目の東京大学名誉教授の上野千鶴子さんの講演では、『「真の自由」を求めて、女性学は

何と闘ってきたか』をテーマに話をした。「世の中の流れに任せて思考停止するのではなく、これはおかしいのではないかということに気がつけるようになること、それを伝えていくことがより良い社会作りのきっかけになる」と話した。最終日には助産師の土屋麻由美さんによる講演が行われた。妊娠・出産の実態や遅れている日本の性教育改革を話し、男女ともに互いの心と身体について知り安心して過ごすことができる間柄になることが重要だと話した。

参考文献

・「平和週間 生徒が作った学びの場」『学園新聞』第725号 2021年10月30日。